

ムスジイトンボ

Paracercion melanotum (Selys)
トンボ目・イトトンボ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：県域準絶滅危惧

【環境省カテゴリー】—

選定理由

安定した生息地が限られている。

分 布

国内では本州（岩手県以南）、四国、九州、南西諸島等に分布する。県内では海岸に近い地域に生息地が点在する。

種の特徴

体長 30～39 mm のイトトンボ。セスジイトトンボ等同属他種と酷似し、しばしば混同されるが、オスの上付属器、メスの前胸の形状が異なる。海岸に近い浮葉植物の繁茂する池沼や湖に生息する。成虫は 5～11 月に出現する。

生息を脅かす要因

溜池の改修や水質悪化、ブラックバス等の外来種の増加等が脅威となる。

参考文献 尾園ら (2013)、和田・和田 (2006)

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○	○		○		○				○	○		○				○

ムカシトンボ

Epiophlebia superstes (Selys)
トンボ目・ムカシトンボ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：要注目

【環境省カテゴリー】—

選定理由

確認地点数は減少しているが、県内には低密度ながら広く分布している。ただし、河川源流部を主な生息地としており、洪水や開発等で生息環境が破壊される恐れもあることから注視が必要と判断した。

分 布

北海道～鹿児島県まで広く分布する日本特産種。県内のほぼ全市町に点在分布記録がある。過去に記録のある美浜町折戸谷や若狭町河内の熊川では今回本種を確認できなかった。

種の特徴

均翅亜目と不均翅亜目の体形を折衷したような中型のトンボで、黒地に黄色い反復型の条斑がある。体長はオス 48～56 mm、メス 45～53 mm。樹林に囲まれた丘陵地～山地の源流に生息する。幼虫期間は 5～8 年程度。成虫は主に 4 月下旬～6 月中旬に出現する。

生息を脅かす要因

河川の上流部や、源流部に生息するため、これらの森林の伐採等の環境変化の影響を受けやすい。近年の大雨による洪水で河川が荒れたり、河川改修が施されることで生息環境が減少する恐れもあり、注視が必要である。

参考文献 福井県自然保護課 (2002)、尾園ら (2012)、杉村ら (1999)、和田・和田 (2006)

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○

ナゴヤサナエ

Stylurus nagoyanus (Asahina)
トンボ目・サナエトンボ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

かつて県内に生息していた可能性が高いが、近年確認例がない。

分 布

日本固有種で、北海道、本州、四国、九州に分布するが、生息地は局限される。県内では 1956 年に福井市で成虫 2 オスの採集例があるのみ。

種の特徴

体長 59～65 mm のサナエトンボ。腹部第 7～9 節が広がり、腹面が黄色となる。メガネサナエやオオサカサナエと似るが、オスの副性器、腹部の黄斑の形状等が異なる。砂泥底の河川中流ないし下流に生息する。成虫は 7～9 月に出現する。

生息を脅かす要因

河川の改修や水質悪化等が脅威となる。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会 (1985)、尾園ら (2013)

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																	○